

にしっこ 西っ子のみなさんへ 84 4月9日

大仏だいぶつといえば、奈良なら・東大寺とうだいじの大仏ですが、今日、4月9日は「大仏の日」です。

752年のこの日、奈良・東大寺の大仏かんせいが完成なしました。何をもって完成というかですが、大仏たましいに魂いを入れる開眼供養会かいげんくようかいが行われたのが、4月9日になります。

奈良の大仏は聖武天皇しょうむてんのうの発願ほつがんで、745年に造り始められました。大仏の正式名称は「盧舎那仏」です。盧舎那仏とは世界を照らす光り輝く仏という意味をもっています。現在は深緑色のお姿ふかみどりいろをしている大仏ですが、建立された当時は黄金色に輝いていました。



聖武天皇は、24歳の時に即位したのですが、この時代、天然痘というはやり病や地震、飢饉が相次ぎ、そんな世の中に不満をもった人たちが反乱を起こし、国はますます乱れてしまいます。聖武天皇は、都の場所をかえれば国が安定するのではないかと考え、次々と都を移しますが解決にはいたりません。そこで聖武天皇がすがったのが仏教でした。不安定な世を仏教の力で救おうとしたのです。聖武天皇は、国の一大事業として大仏を造ることを決心します。そして743年、民に向け、大仏造りへの協力をよびかける「詔」を出します。

天武天皇が協力を依頼したのが「行基」という僧です。このお坊様は貧しい人々に食べ物をあたえたり、川に橋をかけたり、日照りに備えて池を造ったりと社会事業に尽力した人です。そのため人々からの信頼が厚く、行基の頼みに多くの人たちが応え、大仏を造るための資材や労働力が提供され大仏は完成します。

大仏は、その後、火事で焼けたり、地震で首が落ちたりしますが、そのたびに修復され現在に至ります。東大寺も火事で焼け落ちているので、現在の東大寺は江戸時代に再建されたものです。東大寺は世界最大の木造建築物ですが、聖武天皇の時代の東大寺は更にもっと大きく、横幅が80m以上あり、今の1.5倍ほどの大きさがあったようです。

大仏を黄金色にするために化学の知恵が使われています。金閣寺は金箔が貼られています。奈良の大仏には「金アマルガム法」という方法が使われています。銅でできた大仏に金を直接塗ることはできません。そこで、常温で液体である水銀に金を溶かし、これを大仏に塗り、火で温めて水銀を蒸発させます。こうすることで金だけが残り金メッキすることができるのです。ただし、水銀は人間にとって毒であるので、この作業で多くの人水銀中毒になったのではないかと考えられています。

今年の6年生の皆さんは、東大寺を訪ねることができると思いますよ・・・